

# 建築材料不足と世界情勢

なぜ「一時的不足」ではなく、長期化前提で動き始めているのか

---

## 注意事項

本資料は、現時点の：

- 政府発表
- 経産省会見
- Reuters等報道
- 石油・化学業界分析

を元に整理した説明資料です。

未来を断定するものではありません。

ただし、

### 「短期正常化前提では動かない」

企業・政府の動きが増えている事を整理しています。

---

## 1. 現在の問題は「単なる材料不足」ではない

現在の建築材料不足は、

単なる：

- 工場停止
- 在庫切れ

ではありません。

実際には：中東情勢 ↓ 原油物流不安 ↓ ナフサ供給不安 ↓ 石油化学原料不足 ↓ 塗料・接着剤・樹脂不足 ↓ 建築材料不足  
という構造です。

---

## 2. 建築材料の多くは石油由来

建築で使われる：

- シンナー
- 塗料
- 接着剤
- 防水材
- コーキング
- クロス
- 床材
- 樹脂
- 断熱材

などは、

多くが石油化学製品です。

---

## 3. ナフサとは何か

ナフサとは：

### 「石油化学の原料」

です。

流れ：原油 ↓ ナフサ ↓ 化学原料 ↓ 建材・塗料・接着剤

---

## 4. なぜ日本が影響を受けやすいのか

日本は：

- 原油
- ナフサ
- LNG

を中東依存しています。

特に重要なのが：

### ホルムズ海峡

です。

---

## 5. ホルムズ海峡問題

ホルムズ海峡は、

世界の：

- 原油
- LNG
- ナフサ

輸送の大動脈です。

現在、

- イラン情勢
- 米国・イスラエル軍事行動
- 海上封鎖リスク
- タンカー保険高騰

により、

物流不安定化が発生しています。

---

## 6. 日本政府の発表

経産省は、

### 「国内需要を満たす量は確保」

と説明しています。

ただし重要なのは、

### 「通常通り流通する」

とは言っていない事です。

---

## 7. 実際に起きている事

経産省会見では、

- キシレン
- トルエン
- シンナー

の供給不安が説明されています。

特に：

## 「4月分は供給するが、5月分未定」

という通知により、

メーカー側が：

- 出荷制限
- 出荷半減

を行った事例が説明されています。

---

## 8. 「量はある」のに現場へ来ない理由

政府側は：

### 「国家全体としては量を確保」

と言っています。

しかし現場では：

- 出荷調整
- 小口停止
- 割当制
- 納期未定

が発生。

つまり、

### 「国全体」

と

### 「末端現場」

では状況が違います。

---

## 9. なぜ中小建築会社ほど苦しいのか

大手企業は：

- 長期契約
- 大量購入
- 現金力
- 在庫力

があります。

しかし中小は：

- 小口購入
- スポット購入
- 在庫少
- 現金力弱い

ため、

**真っ先に影響を受けやすい。**

---

## 10. なぜシンナーが先に不足するのか

シンナーは：

- 消耗が早い

- 代替しづらい
- 危険物
- 在庫量少ない

ため。

しかも：

- 塗装
- 洗浄
- 接着

が止まるため、

## 「現場停止」

へ直結しやすい。

---

## 11. 現在、企業が長期化前提で動いている理由

Reuters等では：

- 出荷停止
- 受注停止
- 生産調整
- 価格改定
- 原料調達先変更

が報道されています。

また日本政府も：

- 備蓄放出
- 代替調達
- サプライチェーン再編

を進めています。

---

## 12. なぜ「すぐ元に戻る」と言い切れないのか

仮に戦争が止まっても、

すぐ正常化しない可能性があります。

理由：

- タンカー再手配
- 保険正常化
- 精製再調整
- 在庫再構築
- 契約再編

に時間がかかるため。

---

## 13. 実際に世界が動き始めている方向

現在：

- 日本
- 韓国
- 中国
- ASEAN

などで、

## 「供給網再編」

が始まっています。

---

## 14. 建築業界への影響

今後は：

- 材料
- 人材
- 資金

を同時管理しないと、

現場停止リスクが高まる可能性があります。

---

## 15. なぜ共同体構想が必要なのか

今後は、

### 「各社単独」

ではなく、

- 共同調達
- 共同回収
- 人員融通
- 原価共有
- 未払い防止

など、

### 「施工側共同インフラ」

が必要になる可能性があります。

---

## 16. 最後に

現在起きている問題は、

単なる：

一時的品不足

ではなく、

### 「世界的な供給網再編」

に近い可能性があります。

その中で、

地域施工力を守る為に：

- 材料
- 人
- お金
- 情報

を共同管理する必要性が高まっている可能性があります。

---

## 参考情報

- 経済産業省会見
  - Reuters
  - 石油・化学業界分析
  - 日本政府備蓄対応
  - 中東物流問題
-

# 補足説明

## 「国内需要を満たす量は確保」の意味

この言葉は、

## 「全国の建築会社へ通常供給できる」

意味ではありません。

実際には：

- ガソリン
- 発電
- 物流
- 医療
- インフラ

などが優先されます。

そのため、

建築系材料では：

- 出荷制限
- 小口停止
- 割当制

が発生しやすい。

---

## なぜ今後さらに不安定化する可能性があるのか

現在は：

- 戦争
- 制裁
- 海運不安
- 保険高騰
- 精製能力問題
- 世界的インフレ

が同時発生しています。

そのため、

## 「短期正常化」

より、

## 「長期不安定」

を前提に動き始める企業が増えています。

---

## 建築業界で起き始めている事

現在：

- 見積破綻
- 契約見直し
- 現場停止
- 材料待ち
- 工期延期

が増えています。

また、

- 小規模工務店
- 一人親方

- 協力会社

ほど影響を受けやすい状況です。

---

## 今後重要になる可能性があるもの

### 「単独施工」

ではなく、

- 共同調達
- 共同受注
- 共同回収
- 人員融通
- 原価共有

など、

### 「施工共同インフラ」

です。

---

## 本資料の結論

今後の建築業界では、

- 材料
- 人材
- 資金
- 情報

を、

### 「共同で管理・共有する仕組み」

の重要性が高まる可能性があります。

その為、

地域施工力維持の為の：

### 「共同体構想」

が必要になる可能性があります。

更新日: 2026-05-06 18:06 JST